

DX 推進の取組について

トップメッセージ

アース製薬は、「生命(いのち)と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」という経営理念のもと、人々の健やかで心豊かな暮らしと持続可能な地球環境の実現を目指してまいりました。創業以来、私たちは常に時代の変化に対応し、革新的な製品・サービスを通じて社会に貢献することを追求しています。デジタルテクノロジーが社会、経済、そして私たちの日常生活に深く浸透し、急速な変化をもたらしている現代において、この経営理念を未来に向けてさらに力強く実現するためには、全社的なデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進が不可欠であると確信しています。DXは単なる技術導入ではなく、ビジネスモデル、組織文化、そして社員一人ひとりの働き方を変革する挑戦です。この認識のもと、私たちアース製薬は、「デジタルを経営の駆動力とし、変化を的確に捉え、人々の豊かな暮らしと持続可能な地球の未来を共創するリーディングカンパニー」となることをDXビジョンに掲げ、以下の5つの中長期方針のもと、DX戦略を強力に推進してまいります。

5つの中長期方針

1 データドリブン経営の徹底による意思決定の高度化と効率化

市場、お客様のニーズ、研究開発データ、生産・物流情報など、企業活動から生まれるあらゆるデータを収集・分析し、客観的な根拠に基づいた迅速かつ最適な意思決定を行います。これにより、経営資源の最適配分、業務プロセスの効率化、そして新たな価値創造を実現します。

2 デジタル技術及びデータの活用によるGX(グリーントランスフォーメーション)の推進

デジタル技術及びデータの活用により、生産ラインのエネルギー使用量の可視化と最適化、AIによる最適な在庫・物流管理、環境負荷の低い製品設計支援など、サプライチェーン全体での環境負荷低減を加速させ、GXの推進へと繋げてまいります。

3 AIの活用によるイノベーションと生産性向上

急速に進化する生成AI技術やAIエージェントサービスを、研究開発における新素材探索、製品企画、お客様からのお問い合わせ対応高度化、社内業務の自動化・効率化など、多岐にわたる分野で積極的に活用します。これにより、社員の創造性を解き放ち、イノベーションを加速させるとともに、生産性の飛躍的な向上を目指します。

4 全方位のデジタル変革の推進

DXは特定の部署や機能に限定されるものではありません。研究開発から製造、販売、物流、コーポレート機能、そしてお客様とのコミュニケーションに至るまで、企業活動のあらゆる局面でデジタル技術を導入・活用し、組織全体のレジリエンスと競争力を強化します。

5 変革を支える基盤構築

DXビジョンを達成するためには、社員一人ひとりの意識改革とスキルアップが不可欠です。私たちは、デジタルリテラシー向上のための教育機会を提供し、変化を恐れず新しい技術や働き方にチャレンジする企業文化を醸成します。また、強固なセキュリティ体制を構築し、データの適正な管理・活用を徹底し、変革を支える盤石な基盤を構築します。

アース製薬は、これらのDXへの取り組みを通じて、持続的な成長と企業価値の向上を果たし、「生命(いのち)と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」という使命を全うしてまいります。今後とも、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長CEO

川端克宜



アース製薬のDX戦略は、5つの中長期方針のもと、データドリブン経営への進化と、顧客起点の新たな価値創造を核とし、これらの取り組みを支える人財の育成を重視しています。

1 データドリブン経営の加速

AI・IoT活用によるサプライチェーン最適化とそれに伴うGXの推進、そしてデータ分析に基づく迅速な意思決定を目指します。社内の業務効率化のみならず、研究開発から生産管理・販売・アフターサービスに至るまで、データとデジタル技術を活用することで高付加価値の製品・サービスを生み出すことを目指します。また、これらにより、客観的データに基づいた経営資源の最適配分を促進し、投資対効果の最大化を目指します。

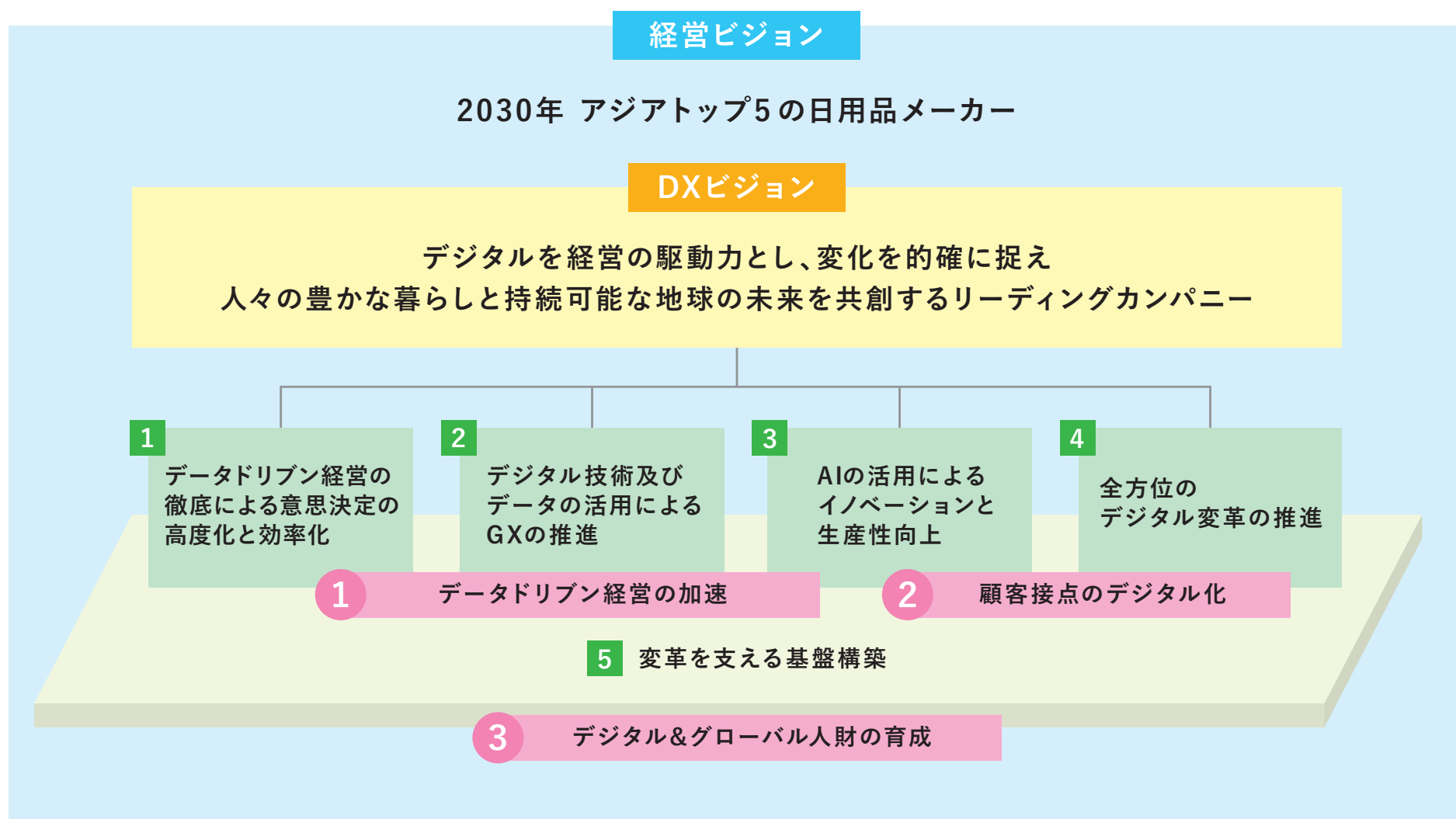
具体的には、基幹システムの刷新により、研究開発から製造までのデータを一気通貫で管理し、原材料費や外注費などのコスト構造の可視化、労働生産性の向上を目指します。また、生産実績から実際にかかったコスト分析の結果を研究開発にフィードバックし、新製品の開発や改良に活かしています。このように、データ分析に基づいたカイゼン活動や予測精度の向上を図り、コスト競争力の優位性を確立します。さらに、生産と販売までのデータを連携し、AI・IoTを活用した需要予測と在庫情報・生産計画を連動させ、効率化と共に機会ロスを極小化する活動に取り組んでいます。

2 顧客接点のデジタル化

オンラインチャネルの強化やスマートフォンアプリの活用により、ユーザーが自宅にいながら最適な商品を選べる環境を提供します。また、従来のTVメディア広告からデジタル広告の割合を高め、ターゲットに届く販促活動により、お客様の好意度を高めブランド価値の向上を目指します。

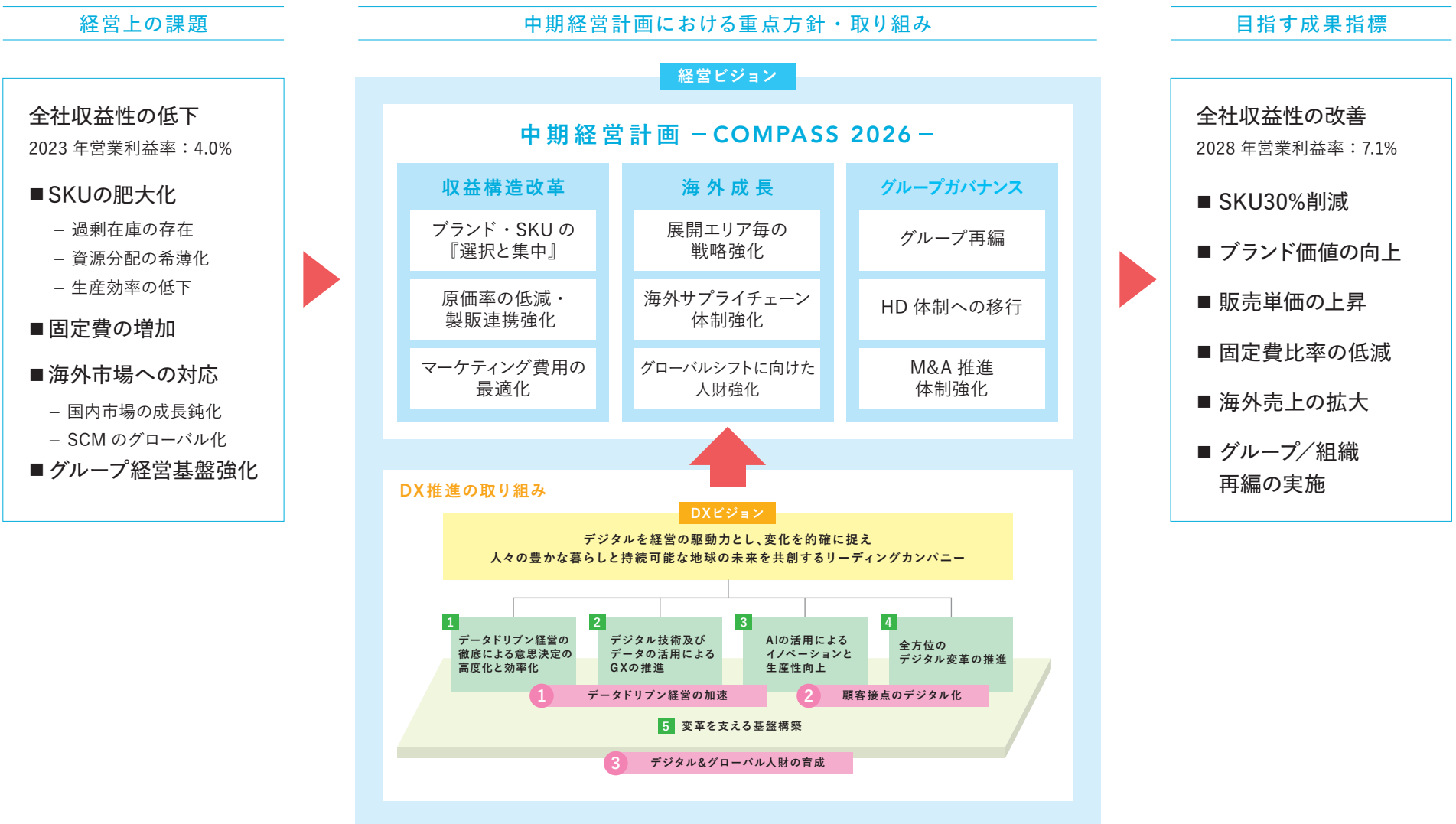
3 デジタル & グローバル人財の育成

社内研修や学習プログラムを拡充し、DXと海外展開を推進する人財を計画的に育成します。また、実務においては、データ分析や生成AI、AIエージェント活用の専門スキルを持つ人財を育成し、上記①②の戦略実行を加速させます。



成果指標

アース製薬は、DX戦略の推進を通じて企業価値向上を目指し、2028年の全社営業利益率7%超の達成(2023年実績に対し+3.0ポイント超)を目標としています。経営ビジョン、中期経営計画とDXの取り組みとの関係は以下のとおりです。



これらの取り組みの詳細は、当社ウェブサイトにて公開している「中期経営計画」関連資料に記載しています。

DX推進体制と環境整備

DX推進体制

推進組織

全社に対してDX戦略の更なる推進を図るため、各部門のメンバーによって構成される「DX推進委員会」を創設する計画です。この委員会は現在DX・AIを推進する役割を担っている経営統括本部のメンバーが事務局として運営を行います。

人財育成・確保戦略

DX推進に関心を高め部門横断的に活動できるDX推進リーダーを育成します。また、課題解決に必要なスキルを持つデジタル人財の領域を定義し、積極的に採用を進めます。また、社内全体のDXリテラシー向上のため、外部有識者の知見も積極的に導入し、継続的なDX教育を実施しデジタルによる変革を実践する社内文化を醸成します。

ITシステム・環境整備

基幹システムの刷新

既存のITシステムにおいては、どのような見直しが必要かを認識し、対応策が講じられています。具体的には、老朽化した基幹システムを既に刷新済みであり、そのシステムの二次開発など、スループット向上のための設備投資が継続的に行われています。全社的なシステム投資計画は情報システム部が統括しており、これまでも既存システムの見直しや新たなITツールの導入については、優先順位を整理したうえで事業部門と協働で推進する体制となっています。

新技術導入とセキュリティ対策の両立

新たな技術の採用によるシステム改善と並行して、セキュリティの強化も重要な検討事項としています。ハードウェアのアップグレードやソフトウェアの最適化を検討する中で、システム機器に対する脆弱性への対応、アクセス制御の強化、従業員へのセキュリティ教育等を実施することで、サイバー攻撃への耐性を高め、全社的な業務効率と情報セキュリティの向上を図っています。また、業務の効率化と意思決定の迅速化を図るため、業務プロセスの自動化やデータ分析の強化を目的としたAI技術の導入も進めています。